

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100442		
法人名	株式会社アルカディア		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ハピユシ		
所在地	〒900-0014 那覇市松尾2丁目17番45号 開南ハピヒルズ2F		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	平成29年 5月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=4790100442-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の楽しみをご本人や家族等から聞き取りを行いながら、見つけ、ご本人の残存能力を最大限に活用しながら、入居者・職員共に日々の暮らしを楽しく暮らしてもらえらる事を目標に援助させていただきます。

職員へは、研修等を通して認知症の理解等をより深め、より良い介護が出来る様力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は開所4年目で、清潔感と温かみのある色合いを用いた内装は居心地の良い空間を構成している。又、市内中心部に位置し、公共交通機関へのアクセスも便利な場所にあり、地域に開かれた事業所として、家族の頻回な訪問や、定期的なボランティア団体(やーにんじゅ会)とのかかわり、かかりつけ医との連携、家族との連携に配慮した事業を実施している。朝の申し送り、月に1回の全体ミーティングを実施し、職員間の情報共有に努めている。管理者は、就任まもないが、疑問点は、行政、前任者等に確認し迅速な課題解決を心がけている。職員の働きやすい環境づくりへの配慮も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日：平成 29 年 5 月 13 日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員には、施設内研修にて地域密着型サービスへの理解を行った。事業所理念の家庭的な環境のもと、心穏やかに暮らせる様支援するよう心掛けている。	職員全体ミーティングを毎月実施しており、その際に理念の共有を図っている。又、毎日の申し送りの際にも確認している。理念は、事務所の入り口に掲示している。	理念の掲示はされているが、掲示の場所や大きさ等の工夫を行い、職員間の確認するための時間の確保が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流室を利用して地域の方と1～2週間/回の割合で一緒に踊りの練習に参加させて頂いている。また、地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	ほぼ毎日のように、ご家族が訪問している。ご家族との外出の頻度も多い。地域交流室を定期的に利用している団体（やーにんじゅ会）と一緒に踊りを練習している。又、月に1回程度ウクレレ演奏のボランティア、お掃除のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一緒に踊りの練習をする中で、認知症の方の対応や気になる事の質問もあり、こちらでの対応をもとにお話しさせていただく機会がある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況（活動、健康面）等、職員の研修状況や事故ヒヤリハットの報告を行い、参加されていない家族には、後日、議事録と報告書を配布している。	運営推進会議は、偶数月の第4月曜日に固定され、年6回実施している。行政、地域、家族、知見者が毎回参加し、会議に参加した家族以外には、報告書を配布、その際に、家族の参加も促している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	那覇市のグループホーム連絡会への参加や運営推進会議の開催、市役所の窓口にて行っている。	行政からの文書に対し、不明な点は、電話や窓口においてすぐに確認し、指導を仰いでいる。事業所の実情を報告し、相談を行うことにより、課題解決が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を実施し、利用者の対応を優先に行う様にして、勉強会も年1回は身体拘束を題材に行っている。	身体拘束をしないケアについて、定期的に勉強会を行い、職員間での共有を行っている。指針の掲示も実施している。外部の研修にも優先的に職員を参加させている。退院時は一時的にご本人、家族の要望により4点柵やセンサーの設置の対応をしている。その際には、十分な話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回勉強会の題材に取り入れている。日々の業務でも接し方や言葉使いに注意するよう心掛けている。		

沖縄県（認知症対応型共同生活介護 ハピユシ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修参加、ホーム内の勉強会にて後日行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時に不安や疑問点があれば、その場もしくは関係機関へ確認し納得が出来る様答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族代表や面会等で頂いたご家族の意見・要望を職員と早期反映できるように日々の申し送りや職員会議等で検討している。	ご家族から、できるだけ体を動かしてほしい、細かい作業を取り入れてほしいとの要望がある。基本的に洗濯物たたみは、ご本人にお願いしている。作業については、ご家族の要望と、ご本人の現状を確認しながら職員で検討し実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや職員との会話などから、取り入れたら入居者のプラスになるような物は反映させるようにしている。	月に1回は、1時間半程度の全体ミーティングを実施している。月末に実施し主に翌月の行事確認がメインである。その際の職員からの意見を運営に反映している。職員の処遇については、時間給のアップや処遇改善の満額支給を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日・有給の取得や職員の希望する勤務帯での出勤になる様にシフトを組むようにしている。資格取得を促し賃金アップに導き、その他処遇に関しては会社と検討・見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアアップになるような研修には積極的に参加するよう促している。月1回、職員全体で勉強会を行う様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、グループホーム連絡会の参加のみで、同業者との交流や相互訪問は出来ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期入居のご本人様が安心して生活を送る事が出来る様、多く関わりを持ち、話を聞き、寄り添い心穏やかに暮らせる場である様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の締結時に、ご家族の希望や意見等を傾聴し、面会時には近況を伝え、困りごとの解決に向け、互いに協力するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族の精神的・身体的援助を優先し、本人と家族の希望するサービス、必要なサービスを相談し対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりの出来る事、得意な事を見つけ、互いに協力し共に暮らせる関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況を伝え、本人の様子を知ってもらい様努めている。ご本人からの要求が頻繁にある場合や精神的に不安定な場合など面会をお願いし協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会は、よくあるが、親戚、知人や友人の面会は少ない。入居者が自分から出かけて会いに行く事も難しく、外出支援時に行き慣れている平和通りや育ってきた地域へドライブを行っている。	家族以外の知人の面会がある方は、2名いる。ドライブ時に、できるだけ生活していた地域に出かけるようにしている。家族とともに、頻回に自宅に帰る方は1名である。1名の方は、なじみの美容室を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの性格や相性などを考慮し席の配置を考えている。また、生活の中で一緒に居ることを一緒に行う様に支援している。		

沖縄県（認知症対応型共同生活介護 ハピユシ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等があった場合は、対応しており直近では、退所後の施設を紹介してほしいとの相談があり、他施設を紹介し入居につなげた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で関わりを多く持ち、ご本人の話の中や身体的・精神的状況から希望や意向を汲み取り、気になる時には職員間で話し合うこともある。	入居者全員のニーズを家族やご本人からのアセスメントにより把握し、日々の生活の中に取り入れている。2, 3か月に1回は事業所内での食事会として、職員と一緒に調理し、食事を共にする。誕生月には、ご本人の食べたいものを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族の話や、フェースシート等の記録を読み把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録、関わりの中で把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議前に担当職員によるアセスメントを行い、担当者会議にて、要望や課題などを話し合い介護計画を作成している。	計画作成時に担当職員が、入居者や家族にヒアリングを行い、アセスメントを実施している。担当者会議には、家族、本人、職員が参加し、介護計画に反映している。計画を共有するための日々の記録が活用されていない。	介護計画をチームで作成・実践するために、アセスメントの工夫と日々の介護記録の活用が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の個別の状況を記録に記入し、申し送りし、個別の状況に応じて対応するよう心掛けている。介助や支援方法の検討を定例の申し送り時や職員の全体会議の時に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各自の要望を聞き、関係者の協力を得られるよう状態や状況に応じて対応している。		

沖縄県（認知症対応型共同生活介護 ハピユシ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域連携室で活動されているやーにんじゅ会の練習日に一緒に踊りの練習へ参加させていただいたり、那覇市のちゃーがんじゅうポイント制度を利用したボランティアの方と一緒に掃除やおしゃべり、ウクレレ奏者の来所を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご家族の希望のかかりつけ医を受診し、定期受診時には、前回受診日から受診日までの心身の状況を報告書にまとめ、ご家族に持参していただき受診するようにしている。	入居時に本人・ご家族に希望を確認し、ほぼ全員が協力医をかかりつけ医に変更した。他科受診も希望する病院を利用している。定期受診時は状況報告書をご家族にお持ちいただき、結果は即日職員へ周知を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活での変化やバイタル等の異常を看護師に報告し、必要時には医療へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を図り、情報交換や相談を行っている。退院時には、医療情報を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際や介護保険更新時の担当者会議等必要に応じて急変時や重度化した場合の対応の検討の確認を行っている。	入居時、重要事項説明と合わせ重度化や終末期についての指針を示し明文化している。本人家族から希望を聴取し同意書取り付けているが状態変化時にも再度話し合いで確認を行っている。現在看取り対象者はいらっしやらない。職員は終末期にむけた研修や勉強会へ参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網や初期対応方法を貼り出し、施設研修として、対応の訓練を行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回（昼間想定、夜間想定）の避難訓練を行い、消防や施設の他事業者と協力している。今年度は、地域の方との日程調整が出来ず参加が得られていないが来年度は、参加していただけるよう調整していきたい。	昼夜想定避難訓練を、同建物内の施設と合同で年2回行っている。近隣の方々への告知を行うも本年度は参加が得られず、次回は実施前に近隣へのチラシ配布等で参加を促す予定でいる。災害マニュアルや備蓄は整備されている。	訓練実施前の告知により、地域の方々の参加と協力体制作りを期待したい。

沖縄県(認知症対応型共同生活介護 ハピユシ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の介護やコミュニケーションの時に尊敬や尊厳を持ち対応するように対応するよう心掛けている。	利用者一人ひとりに役割を持ってもらい掃除(モップがけ、手すり拭き、合皮クッション拭き)ちり紙作り等、毎日少しずつでも残存能力を発揮できる場をつくっている。入浴は基本同性介助だが本人の希望をきいて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう、ご本人のペースに合わせて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人が希望されるように対応を心掛け、時間を置き気持ちが変わった場合もできるだけ対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの装いやこだわりを尊重し、清潔保持ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者による食事提供の為、食事の準備をすることはしないが片づけは、できる方に行ってもらっている。2~3か月に1回程度ではあるが昼食を食材準備し、簡単な調理を職員と一緒にしている。	3食共配食で利用者は準備や片付けをできる範囲で手伝っている。楽しく食事がとれるよう席は様子をみながら配置変えをしている。2、3ヶ月に1度のおやつ作りでは東南アジアの家庭料理を作った。利用者は卵を割ったり生地をこねる等して参加した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録への食事・水分の摂取量等を記載し、食事の形態はご本人の好みや状況を把握し、栄養士と連携している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る所は歯磨きを行って頂いている。磨き残しや義歯洗浄剤へのつけ置き等は介助している。訪問歯科を利用中の利用者もいる。		

沖縄県（認知症対応型共同生活介護 ハピユシ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄時間や間隔、パターンを把握し、トイレにて排泄できるよう、支援している。	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄リズムを把握している。間隔があいている方へはさりげなく声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動を試み様子観察を行い、かかりつけ医等と連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則として、一日おきに声掛けし、ご本人の希望で入浴していただいている。職員と一対一での入浴を好まない方へは他利用者と一緒に入浴を行うこともある。	個浴を基本としているが、1対1での入浴を嫌がる方に、他利用者と一緒に入浴を試み、成功した事例がある。石鹸やシャンプー等は本人が気に入っているものを利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠を阻害しないよう、消灯時間は、21時で設定していますが、眠れない方は、居室で読書など好きなことをして過ごしていただいています。夜間の巡視は、1時間おきに行い、異変時にはすぐに駆けつけるようにしています。日中も休息の希望があれば、夜間の睡眠に影響ない程度での休養を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に間違いがないよう、ダブルチェックを行い、症状の変化等あれば、看護職員や医師等へ報告し安全に服用できるよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた活動（課外・室内）を行い、ご家族にも協力いただき、面会や外出する機会を作ってもらえるように協力して頂いている。また、それぞれが得意としている活動（壁面作成や家事活動等）を行ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や本人の希望である買い物・散歩等の支援を行い、ご家族にも協力して頂き外出の機会を作るようにしている。	日常的に買い物や近隣散策等を個別に対応している。施設建物の屋上で気分転換を図ったり、2、3ヶ月に1度遠出をして桜を見に行ったり、外食やファストフードを楽しんだりしている。	

沖縄県（認知症対応型共同生活介護 ハピユシ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援時に個人の好みの物を購入することもあるので、小口の現金を預かっている利用者も数名いる。預かっている小遣いの中から生活に必要なものを職員と一緒に散歩のついでや外出支援時に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	強い希望があるときには、職員がダイヤルをまわし、ご本人が電話にて会話することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面は季節ごとに利用者に飾り付けをして頂き、季節感を出す様にしている。また、室温・湿度の調整を行い快適に過ごせる様心掛けている。	出入りが自由なテラスがあり、リビングはベージュトーンで統一され、明るい窓際にはソファベッドが置いてある。利用者の状態に応じて配置換えを行い快適に過ごせるよう工夫している。壁面には季節の協働作品を、利用者と一緒に飾りつけを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、テレビ視聴したり談話や傾眠したり、思い思いにテーブルの自分の席やソファ等にて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、思い思いの品が持ち込まれており、テレビやラジカセ、本、写真等が本人と家族の過ごしやすいようにそれぞれが配置している。	本人の好きな物や使い慣れた物をお持ちいただくよう案内している。趣味の生け花や、仕事に関わる拘りの品を飾ったり、壁には家族の写真等を飾っている。お孫さんがいる方の居室には遊びに来た時の為におもちゃが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな文字や図でわかりやすい様に表示するようにしている。		